

2000年 卒業研究要旨

日本人のギャンブル観

深津 裕矢

第1章でギャンブルの起源とその歴史を簡単に振り返るとともに、ギャンブルとは何かを定義している。ギャンブルの初期の形態は、人々がまだ狩猟や採集によって生活していた頃に、種族の繁栄を目的として行った占い行為であることがわかった。また、狭義のギャンブルの定義は「複数の参加者による、共通の価値を巡った合意の略奪闘争」である。

第2章では現代の人がギャンブルをする動機、ギャンブル行為を選択する要因を理論的に考えている。人がギャンブルをする内面的動機には「つきあい」などの消極的なものから「ストレス解消」や「一攫千金」、「現実逃避」など、自ら求めて積極的にギャンブルを行うものまで様々である。また、その人がギャンブル行為を選択する・しないを決定する要因として、成育的要因や社会的要因などがある。

第3章ではギャンブルを巡る現代の法制度・公営ギャンブルの施行システム・その売上・参加率などから、日本におけるギャンブル活動の現状を述べている。現在の日本では、刑法によってギャンブルは禁止されている。現在の日本で合法的なギャンブル活動は、俗に公営ギャンブルと呼ばれている3競オートと宝くじ、あとは換金が黙認されているパチンコくらいであろう。そのような「少ない種目しか許可されていない」現状であるにもかかわらず、日本は“ギャンブル大国”と呼ばれるくらいギャンブルが盛んになされており、ギャンブル産業全体の売り上げは30兆円近い。参加人数では宝くじが、売り上げ面ではパチンコがずば抜けているのが特徴である。

第4章では、ギャンブルに対するイメージが形成される要因を考えている。現代においては、ギャンブルに対してよくないイメージを持っている人が多数派であろうと考えられる。その理由として考えられるものとして、「実際にギャンブルに参加している人・その環境」や「ギャンブル依存の問題」、「暴力団との関与の問題」などを考察している。

結論では、私が静岡大学の学生に対して行ったギャンブル調査の結果を分析することにより、現代人のギャンブルとの関わり方を見ている。それによると、宝くじと競馬、パチンコでは参加状況、人々の意識に大きな違いがあった。宝くじをギャンブルだと考えていない人は多いが、競馬やパチンコはほとんどの人がギャンブルであると考えているのである。それほど意識の違いは、「その種目に依存する可能性があるかどうか」という選択肢を選んだ人数が宝くじと競馬、パチンコでは大きく差が出たのが決め手となった。また、パチンコに悪いイメージを抱いている人は他の種目と比較しても多く見られた。